

第 36 回九州少年柔道大会確認事項

【試合方法について】

- ① 最新の国際柔道連盟(IJF)試合審判規定及び、国内における「少年大会特別規定」で行なう。
- ② 試合時間は、団体戦・個人戦共に正規の 2 分間とする。
- ③ 勝敗の決定基準は、

団体戦:一本勝ち=「反則勝ち」>技あり「優勢勝ち」>指導「僅差勝ち」>引き分けとする。

※「僅差」とは、双方の選手間に技による評価(技あり)がない、又は同等の場合、「指導」差 2 あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。得点差が無く、かつ「指導」差が 1 以内の場合は、引き分けとする。

個人戦:得点差が無く、かつ「指導」差が 1 以内の場合は旗判定で勝敗を決定する。(GSは行わない)

(「指導」数によって勝敗が決定する例=0 対 2) (「指導」数に差が出ても判定になる例=0 対 1、1 対 2)

- ④ 代表戦について:団体決勝トーナメントの代表戦については、各チームともに任意の選出とし、試合時間は 2 分間とし、僅差判定により必ず優劣を決する。(GSは行わない)

スコア	・「一本」と「技あり」のみとする。「技あり」には今までの「有効」も含まれる ・「技あり」2 つで合わせ技「一本」とする
抑込時間	・10 秒で「技あり」、20 秒で「一本」とする
罰 則	・「指導」3 回目で「反則負け」となる ・両袖を持って施す投げ技の禁止(3 月 6 日付全柔連発第 29-0804 号) <u>袖釣込腰・大外刈・大内刈・外巻込・小外掛</u> =反則負け、但し:出足払・支釣込足など 背部、上部側面から着地させることまでは禁止するものではない。

【その他確認事項について】

- ・団体戦の選手変更については、1 回交代した選手も再度出場が可能。しかし、体重順に必ず並べること。(各試合場に、白紙が置いてありますので各チームの監督が責任をもって変更して下さい → 本部への届出は不要)
- ・試合は、各試合場で決勝戦まで終了すること。進行の都合で、試合場の変更をする場合がありますので、審判員の先生方は試合場を離れないで下さい。